



料理って、た~のしっ!

●特集 ②-④ 未来へ誇れる環境保全条例 みんなで守ろう ええまち たかしま!

- 5-9 タウンピックアップ
- 10 みんなで5・7・5
- 11 市長日記・省エネ長者作戦
- 12・13 まちな夕写真館
- 14 健康生活していますか?
- 15 びょういんだより
- 16 教育委員会 information
- 17 国保年金あらかると
- 18-21 情報おしらせ版
- 22 そうだ図書館に行こう♪
- 23 窓口・納税
- 24 歴史散歩

【7月29日 「キッズキッチン」で】
今日は、お母さんやお父さんのお手伝いじゃなくて、僕らが主人公! 畑で野菜を採ってきて、「トウモロコシごはん」や「ナスのカレー」を作りました。(関連記事P13)

広報たかしま
(平成19年9月1日発行)

第50号

発行/高島市 編集/企画部秘書広報課
〒500-1600 滋賀県高島市新旭町北畑00の番地 TEL:077-810-3100 FAX:077-810-3101

http://www.city.takashima.shiga.jp
mailto:info@city.takashima.shiga.jp

高島市

歴史散歩

No.33

『四海太平記』シリーズ③ 高島勢が協力し、大軍を撃退!

今回は前月号に引き続き、四海太平記第十四下から当巻のクライマックスといえる場面をご紹介します。

「市瀬、野尻で大いに戦つ」

付：朝倉が援兵にきた事

細川晴元が朽木を攻撃したことが観音城(佐々木六角氏の居城、滋賀県安土の観音寺城)に伝わったので、佐々木義実(軍奉行の市瀬玄蕃允兼重に、急いで北郡の兵をひきいて朽木へ向かい、敵兵を討つように命じたので、たちまち平井・高嶋・大野木・新庄をはじめ江北(湖北地方)・江西(湖西地方)の兵7千騎余りが集まって、その日の午後3時には朽木の北にあたる野尻に到着しました。晴元はこれを知り、この軍勢が朽木の城に近づけば、朽木・横山(佐々木の同族)の軍勢は木戸を開いて打って出てくるのは確実であり、挟み打ちになる前に自分の方から先手をうって攻撃しようと考えました。そこで、三好長基に5千余騎をそえて

城兵の押さえとし、羽床兵部少輔に3千余騎を与えて本陣を守らせ、自分分は3万余騎を引率し、朽木の西北をまわって麻生村に進出しました。翌日、敵味方4万余騎が関の声をあげ、矢叫びの音を谷にひびかせて、両陣が互いに入り乱れて戦いました。その日の合戦に、江州(滋賀県)方は打ちとった首2千余を麻生村に切りなげて、敵をあざむくようにしました。晴元はかかんんに怒って、敵を討つまではこの陣を絶対に引かぬといい、なお残兵を集めて、ふたたび野尻の西まで打って出ました。そのころ、越州(福井県)の国主・朝倉孝景は將軍の危機を聞きつけ、援軍としてかけつけると、関の声を上げて晴元軍に攻めかかりました。晴元の兵は両日の戦に疲れているところを、新軍の軍勢に攻撃されたので、朽木に留まることができず、針畑・途中を通って京都まで逃げて帰りました(下略)。



高島勢が集結した朽木野尻の朽木城(朽木陣屋)跡。現在は、朽木グランド・郷土資料館・森林組合の敷地になっています。

なお、『四海太平記』の当巻は、この後「勅使朽木に下向の事」を語って終了しますが、この他にも当地にゆかりのある高嶋・田中・横山・平井・新庄・磯野などの諸将が登場する巻もあります。興味を持たれた方は朽木村史編さん室をお訪ねください。

図 朽木村史編さん室
(朽木やまびこ館内)
TEL:077-810-3104

▼踊りに、太鼓に、夜店、そして花火。夏はやっぱり祭りですね。「祭り」と聞くだけで、何だか胸がワクワクします。祭りが終わると収穫の秋ですね。田んぼの稲も黄金色に色づき、頭を垂れながら、まだかまだかと秋風に揺れています。▼今月の表紙は、7月29日(日)安曇川町泰山寺にある「風花の丘」で行われた「キッズキッチン」の様子をご紹介します。畑で採ってきた野菜を子どもたちが料理。「あっ、危ない」「気をつけて」。そんな言葉が口から出そうです。でも、最初から最後まで全部をやり遂げた瞬間に子どもは大きく成長するんです。そして、それを見届けた大人も。この胸のドキドキは、成長の階段を上っている足音なのかもしれません。▼平成17年1月10日に創刊号を発した「広報たかしま」も今号で50号を迎えました。皆さんにより親しまれる広報誌になるよう、これからも努力してまいります。何かお気づきの点などございましたら、お気軽に秘書広報課までお寄せください。(広報担当O)



「ドン」「ドン」「た~まや~」
(「近江今津 ふるさとまつり」で)

編集後記